

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム 自由の風(すいせん)	評価実施年月日	平成21年9月20日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年10月30日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>全職員が一体となって地域密着型サービスの内容を重視した理念を作っております。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>名札の裏面に理念を載せるなどし全職員が理念の内容を周知し、理念の実践に向けてケアに取り組んでいます。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>ホーム内に理念を掲示しています。また、ご家族には広報に記載し、日々理念に向けたケアに取り組んでいることをお知らせしています。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>入居者様の必要品の買い物も近所を心掛けており、挨拶に関しては常に心掛けて実行しています。日々、ご近所の方々との交流を心掛けております。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>運営推進会議を通じて地域のお祭りや行事に参加し、買い物も近所でするなど、近隣との交流に努めております。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議を通して、認知症の勉強会を行い、町内会、民生委員を通じて地域の皆様に情報を伝達できるよう努めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>管理者及び計画作成者を中心に全職員が一丸となり自己評価を作成し、その後の評価を活かし一つ一つ細やかに改善に取り組んでいます。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議において、その都度グループホームの昼食の試食をして頂き、意見を頂いています。ほかにも意見があれば次回開催時に回答を報告しております。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>管理者、計画作成担当者、その他の職員に意見・疑問が生じた場合は、その都度市町村に相談し、助言を頂いております。(主に介護保険課、生活支援課)また、小樽市役所内にパンフレットを置かせていただき一般の皆様にご覧いただけるようにしております。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在・過去に於いて権利擁護、成年後見制度を必要とされている方は居りませんが必要時には活用していく予定となっております。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待についての研修会への参加、ホーム内での勉強会や定例会議などで高齢者虐待防止法にかかわる理解を深めております。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時には十分な説明を行い、質問や意見を聞き、理解を頂き納得のうえで同意を頂いております。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホーム内に苦情箱を設置し、各ユニットの管理者及び計画作成担当者が適時、入居者様の意見、不満、苦情を聞き、それらがあれば早急に対応するようにしています。また、苦情における申し立て方法をホーム内に掲げ外部の苦情申し立て窓口の案内をしております。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月発行の広報誌に写真を掲載するなどし、利用者様の日常生活、健康状態をお伝えしています。また、買い物などでの領収書を一緒に送付し報告しています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情箱を設置しています。また、来訪時にはどんなことでも気軽にお話していただけるような雰囲気作りを心掛けております。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度会議を開き職員の意見を聞くようにしています。また、日頃から職員とのコミュニケーションを図り意見を聞きだしやすい雰囲気作りに努めています。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その人らしい個別の生活が出来また、利用者や家族の要望をかなえることができるよう必要な時間帯に職員が確保できるための話し合いや勤務調整に努めています。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	やむをえない場合を除き入居者様が安全に楽しく過ごせるよう人事異動は最小限に抑え馴染みの関係が崩れないよう最善を尽くしております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>他社の研修会に参加し情報を取り入れたり、ホーム内での勉強会を開き 知識、技術について学んでおり職員の質の向上に努めました。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>他事行書の夏祭り、敬老会などに参加交流を深め情報を交換し合いサービスの質の向上に努めています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>積極的にコミュニケーションを図り意見や悩みを気軽に打ちあけられるような雰囲気作りを心掛けています。また、年に数回 会社内で行事を行いストレスの無いよう努めています。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>運営者は定期的にホームに在駐し、利用者や職員との交流を持ち現状や悩みなどを把握しています。また、職員の資格取得についてのアドバイスやサポートも必要な限り行っております。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談にこられた際は、生活歴や現在の生活状況を把握し本人とグループホームを見学して頂き不安や疑問を聞き、利用された際にはご自身の話を傾聴し、本人の求めていることや意見を尊重できるよう努力をしております。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談にこられた際は、家族の思いや求めているものを理解し家族の立場となり対応しています。利用の際は必ず事前にグループホームを見学して頂き、意見や疑問をお聞きしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時は家族や本人の意思、必要としている支援を尊重し支援しております。また、その都度必要があれば他のサービスの利用も活用できるようにしております。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前は必ず本人の見学からはじめグループホームの雰囲気を少しでも理解し納得していただき入居されてからは他の利用者、場の雰囲気になじめるよう職員一同気を配り、出来るだけ家族の訪問回数も増やしていただき安心感を持っていただけるよう工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は利用者様を人生の大先輩として対応し、日々利用者様から教わり、学び共有し合い信頼関係を気づいていくよう努めております。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族の訪問時には日々の暮らしや健康状態を伝えレクリエーションや行事などに共に参加していただけるよう呼びかけより良い関係を築いていけるよう努力しております。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	職員はレクリエーション、行事の活動時に家族の参加を呼びかけ楽しみを共有できる時間を持っていたりできるように努めております。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人のなじみの理美容室や病院を利用し、時折、以前住まれていた利用者の住居を訪問したり、なじみの人や思い出の場所の関係が途切れることのないよう支援しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が橋渡しとなり話題を提供したり、故郷の話や昔話を引き出しながら利用者一人ひとりがで楽しい生活を送れるよう支援しております。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用の終了後にも家族や本人には「いつでも遊びに来てください」「いつでも相談に来てください」などの声かけをし関係を断ち切らないように配慮しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの生活歴や本人の希望を把握しその人らしい暮らしが送れるよう努め、意思疎通困難の方には生活歴や家族からの情報収集などにより対応しております。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用時には自宅訪問や、本人、家族の情報収集、生活歴やその人の暮らし方、家族状況をお聞きしこれまでの経過の把握に努めております。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの、その人らしい暮らし方を把握し日常生活を基に出来ること、出来ないことを見極め、出来ないことは支援し、出来ることに重点を置き現状を把握するよう努めております。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	全職員での意見交換、アセスメントの掘り起こし、本人、家族の意見を取り入れるなどしてより良い介護計画の作成に取り組んでおります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	身体状況、精神的状況の変化時には本人、家族など、関係者と話し合い早急に介護計画を見直し、変化時に対応できる新たな計画を作成しております。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルに暮らしの記録及び食事、水分、排泄状況の記録を行っております。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院送迎及びその他の状況において支援が必要なときは柔軟に対応し支援しております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域と連携しながら生活できるよう、地域の小学校の運動会や行事の際のボランティア活用、消防署の避難訓練を行っております。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望により訪問理美容の利用、町内会のお祭り、小学校の運動会、学芸会の見学など他のサービスも利用するための支援をしております。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターより運営推進会議への参加をしていただくなどの協力体制はとられています。今後もっと密な連携、協力体制を図り協働できるようにしていきます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	入居前にかかりつけ医の確認を行い、本人、ご家族の意見に添って、希望される病院で適切な医療が受けられるよう対応しております。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院との連携にてその都度認知症についての助言やアドバイスをもらいながら必要があれば診断や治療が受けられる体制となっております。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホーム内の看護師、協力病院の看護師との情報交換を強化し連携を図り不安なこと、わからないことがあるときには常に連絡を取れる体制を整えており、健康管理や医療活用の支援をしています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者様の入院時には早期に退院できるようにご家族を交え意思などと話し合いをしております。本人様の情報も医療機関に提出し速やかな退院支援に結び付けられるようにしております。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者の状態に変化のある場合、早急に医師、看護師などと話し合い必要なときはご家族に伝え、家族、本人、かかりつけ医と今後の方向性を含めた話し合いをしております。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人、家族の意向を踏まえ、かかりつけ医、職員が連携を取り、安心、納得の終末期を迎えられるよう取り組んでおり、ターミナルケアについての勉強会を定期的に行い、認識し、急変時に早急に対応していただける医療機関と密な連携をとりチームケアとしての支援に取り組んでいます。たのぼそy		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>移り住む場合はアセスメント、ケアプラン、生活環境、支援内容などの情報交換を行い、これまでの暮らしを継続できるように配慮しております。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者様の人格を尊重しプライバシーを侵害するような言葉掛けを取らないよう職員同士意識を持つよう努めております。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者様の意思や人格を尊重し利用者様の立場に立ったサービスを提供できるよう努めております。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員側の都合を押し付けるのではなくその人が今、したいことを尊重し、その人らしい生活が営まれるよう支援しております。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>着替え時には本人の着たい衣服を選んでいただいています。意思疎通困難な利用者には家族の用意した衣服を季節に合わせてきていただいています。本人の望む、なじみの理美容室に行っていたり、家族、本人の希望を踏まえその人らしい身だしなみが出来るよう支援しております。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>見守りしながら利用者、職員と一緒に食事の準備をし、職員は利用者と一緒に食事をしており、食器洗いも職員と一緒に、年に数回は、外食、出張サービスのおすし屋さんに来ていただきホームでは味わえないものも食べて頂いております。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人が望まれるものがあればその都度、買い物に出かけています。タバコを吸いたい方に対しては設備を整えたり、その方の嗜好にあった支援をしています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表をもとに利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を心掛けております。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者様が望まれる曜日、時間に入浴できるよう支援しております。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中はなるべく生活活動を促し、夜間安眠できるよう支援しております。利用者様の休息はその時の希望、体調などを考慮し休息できるように支援しております。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者様の過去の生活歴や趣味を活かした活動や役割を持てるよう支援しております。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様の希望や状態に応じ、ご本人が家族よりお預かりしているので職員と一緒にの買い物などに活用できるよう支援しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホーム内の隣にある、スーパーや薬局で買い物をしたり、近くを流れる川を見に散歩に出かけたり日常的に外出支援をしております。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりの要望に添い、日々外出行事を考案し実行しております。行事での外出では家族にも参加を呼びかけ家族と共に出かけられる機会を設けております。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話や手紙は好きなときにやり取りできるよう支援しています。また、電話は個室にも設置し、プライバシーが守れゆっくりお話しが出来るよう配慮しております。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族やお友達の訪問には時間や居室での宿泊にも制限が無く、希望すればグループホームの食事も提供しており、馴染みの人たちがいつでも気軽に訪問でき、居心地よくすごしていただけるよう工夫しております。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に外部研修に参加し、ホームにて身体拘束委員会を設置し勉強会を設け全職員が研修内容を認識できるよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでおります。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	常時入居者様の見守り、行動に気を配り入居者様がいつでも日光浴や散歩に行けるよう玄関の鍵は開放しており不快、不安を抱かないような生活を支援しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は全体を把握できるフロアでの見守り及び記録をとり、夜間対は居室が見渡せる食堂または談話室で見守りを行い、2時間毎、または必要に応じて巡回を行い、利用者様の様子を把握し安全に努めています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	すべてを禁止することが無いよう、その時々の入居者様の状況を把握、理解し、必要であれば職員が見守りなどにて対応しております。薬や洗剤などは鍵付の棚に保管し、タバコは決められた場所に保管しています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	グループホームにおいて事故対策委員会を設置し、定期的に勉強会を設けています。外部研修にも参加しその研修内容を全職員が周知できるようにしております。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生時マニュアルを作成しマニュアルに添って定期的に勉強会を開き、全職員がその状況時に対応できるよう努めています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	1年に数回消防より避難訓練及び自主避難訓練を実施し、地域・町内会にて非常時の協力を得られるようお願いしております。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	入居契約時に家族にグループホームでの毎日の生活の中で起こり得るリスク(転倒、転落、病気)について説明し理解を得ております。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、朝・夕の2回バイタルチェックを記録し表情や顔色、生活状態、食欲、全身状態の変化、異常の早期発見、また、入浴時には皮膚の異変は無いか確認し職員間で情報交換を行い異変があった場合には訪問看護氏や主治医に報告し対応しております。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が服薬表や薬手帳を把握し薬の目的や副作用など用法、用量について理解し、服薬の際には薬を手渡しし、服用の確認を行うなど変化があれば主治医に報告し対応しております。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	散歩や買い物に同行、食事作りや掃除などの家事にできるだけ多く参加していただけるよう配慮しております。便秘予防対策としてこまめに水分摂取、整腸作用のある乳製品や果物などをおやつなどに提供しております。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後ならびに間食後に口腔ケアの声かけをし、入居者様の状況に応じて職員が介助をしています。口腔内状態、嚥下力の維持向上を図るためほぼ毎日嚥下体操を行っています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事は専門業者への委託でバランスの取れたおいしい食事を提供しています。食事摂取量や水分量はケアスタッフが毎日確認し記録を行い利用者一人一人地の状態を把握しております。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	適時感染症の外部研修に参加しホームで勉強会を行い、全職員の感染症への理解に努め、マニュアルを用いて感染症の対応、対策を行いました、インフルエンザ予防にワクチン接種を行っております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食中毒予防のため衛生委員会を設置し、外部研修への参加や勉強会を行い全職員が理解し、台所用具は毎日消毒を行い、各消毒チェック表を設け衛生管理を徹底しております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関先にホームの案内板を設け、玄関先にも「いつでもご相談ください」と手作り看板も設置、周りには花や木を植え安心して出入りのできる環境となっております。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ホーム内には季節を感じられるよう季節に合った飾り付けをしており、食事も季節を感じられる旬の物を提供しています。音や光にもカーテン、テレビの音量などに気を配り不快な感じにならず居心地よく過ごせる空間作りを工夫しております。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	フロアはソファの配置に気を配り、一人になれる場所の確保や食卓テーブルの配置などにも気を配り気の合った利用者が和気藹々と過ごせる場所作り、楽しく食事の取れるスペースなどの工夫も行っております。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居時には今まで使った馴染みのものを持ってきていただけるよう本人やご家族に説明し、居室は本人の使いやすい家具の配置を心がけ、安心して居心地よく過ごせる工夫をしています。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	日中は換気のため定期的に窓を開け空気の入替えを行っています。各居室や食堂、居間に温度計を設置し、温度・湿度の管理をしています。臭いの対応としてトイレや玄関には消臭スプレーや芳香剤を利用し対策を整えています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内にてすりを多く設置し、フロア、食堂の家具につかまり安全に歩行しやすいよう家具の配置に気を配り、トイレなどの間口の広さの確保や車椅子の高さに洗面台を設置するなど一人ひとりが自立した生活を送れるよう工夫しております。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ユニット内に入居者様の目線に応じた場所に時計・カレンダーを掛け各居室にも各人に合わせ他時計・カレンダーを掛けています。混乱などが生じた時は速やかに不安などを取り除けるよう対処しております。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外回りには花壇や家庭菜園があり、適宜水撒きなどを行い、野菜の収穫なども楽しんでおります。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)